

<レフェリング 豆知識>

オフサイドのシグナルのタイミング①

オフサイドのシグナルのタイミング

1. 攻撃側競技者が抜け出した場合

・ オフサイドのシグナルの適切なタイミングを考える上での考慮点

- ・ 最後に攻守どちらがボールに触れたか、守備側であれば意図的なプレーか
- ・ ボールの方向とスピード、移動の仕方(浮き球、グラウンダー等)
- ・ アウトオブプレーになる、またはGKがボールを保持できる可能性
- ・ オフサイドの競技者の移動方向とスピード、ボールをプレーする意図
- ・ **オフサイドの競技者がボールに触れる、または、プレーできる可能性**
- ・ その他の攻撃側競技者がプレーできる可能性
- ・ 守備側競技者の位置と動き
- ・ オフサイドの競技者と守備側競技者(GKを含む)の関係性(距離、移動方向、スピード、**接触／妨害**)



オフサイドポジションかどうか、副審のポジションや動きについては含めていません。

HKFA情報共有_9月

2021/10/1

112



オフサイドのシグナルのタイミング

2. 攻撃側競技者が戻ってきた場合

・ オフサイドのシグナルの適切なタイミングを考える上での考慮点

- ・ 最後に攻守どちらがボールに触れたか、意図的なプレーか
- ・ ボールの方向とスピード、移動の仕方(浮き球、グラウンダー等)
- ・ アウトオブプレーになる、またはGKがボールを保持できる可能性
- ・ オフサイドの競技者の移動方向とスピード、ボールをプレーする意図
- ・ **オフサイドの競技者がボールに触れる、または、プレーできる可能性**
- ・ 守備側競技者の位置と動き
- ・ オフサイドの競技者と守備側競技者の関係性(距離、スピード、**近づく方向、接触／妨害／挑む**)
- ・ その他の攻撃側競技者がプレーできる可能性



オフサイドポジションかどうか、副審のポジションや動きについては含めていません。

HKFA情報共有_9月

2021/10/1

113



いつ、オフサイドの反則の合図をするか？

- ・ プレーの妨害とは？
- ・ 相手競技者への妨害とは？
- ・ その位置にいることで利益を得るとは？

このあたりの理解があつて、「いつ」旗で合図するかを判断すると思います。一般的な、思考の手順は、左のようになるとはいますが、みなさんはいかがでしょう？

合図するとは、「反則」だから合図します。当たり前ですね。でも、それだけで合図しますか？

反則であっても、守備側競技者に影響せず、プレーが続く、あるいは、GKがボールをキャッチする。こういう時は

合図は必要ないと思います。逆に、オフサイドポジションにいて、ボールを追いかけている、すなわち、プレーを妨害するに当たる行動をしている場面はいかがでしょう。この時に、「プレーの妨害、すなわちボールにプレーするまで合図をしない」ことをよく見かけます。ボールを追いかけている競技者が、オフサイドポジションの競技者だけであるケースは、すなわち、オンサイドにいる競技者がボールにプレーしようとしていない、プレーできないと判断できた時点で、少なくとも旗をあげて合図する方がいいと思います。



<only1 のケース>

< 前回競技規則テスト問題 > 今後、毎回実施します!!

問題文に対する、正しい回答の記号を選びなさい。

- (1) 攻撃側競技者がシュートしたボールがゴールに入るところを守備側競技者が不自然に体を大きくした位置の腕で阻止した。その跳ね返ったボールをオフサイドポジションにいた攻撃側競技者が得点した。
- a. ゴールを認める。(アドバンテージを適用)
 - b. ゴールは認めるが、ハンドの反則で得点を阻止した競技者は反スポで警告。
 - c. ゴールを認めず、得点阻止で退場。相手チームの P K または直接 FK でプレーを再開する
 - d. ゴールを認めず、オフサイドの反則として守備側チームの間接 FK でプレーを再開する。
- (2) 主審は、大きなチャンスとなる攻撃を妨害し、警告となる不用意に犯された反則だと判断したが、アドバンテージを適用した。その反則を犯した競技者は既に別の反則で警告されていた。その後の展開で得点とはならず、ボールインプレーが続きその競技者がボールをプレーした。
- a. プレーを続けさせる。次のアウトオブプレーでも警告する必要はない。
 - b. プレーを続けさせる。次のアウトオブプレーで警告し、2 回の警告により退場を命じる。
 - c. プレーを停止し、2 回目の警告で退場を命じ、ドロップボールでプレーを再開する。
 - d. プレーを停止し、2 回目の警告で退場を命じ、相手チームの間接 FK でプレーを再開する。
- (3) ペナルティーマークからのキック (KFPM) の進行中に、反則を犯したゴールキーパーが注意を受けた。その後、そのチームのゴールキーパーは試合中に警告を受けていた資格のある競技者と入れ替わった。入れ替わった後のキックの進行中に、そのゴールキーパーが反則を犯し、ボールはゴールを外れてゴールに入らなかった。
- a. キックはミスとし、入れ替わったゴールキーパーに注意を与える。
 - b. 入れ替わったゴールキーパーに注意を与え、ペナルティーキックを再び行う。
 - c. 入れ替わったゴールキーパーに警告を与え、ペナルティーキックを再び行う。
 - d. 入れ替わったゴールキーパーに警告を与え、2 回目の警告で退場とした後、ペナルティーキックを再び行う。
- (4) 写真のような事象がインプレー中に起きた場合、どの様に判断すべきか？
- a. ボールは GK の自陣ペナルティーエリア内にあるので、GK は手でボールを手で扱える (プレーを続けさせる)
 - b. ボールは GK の自陣ペナルティーエリア内にあるが、GK がボールを手で触れた部分はペナルティーエリア外なのでハンドの反則として PK を与える
 - c. ボールは GK の自陣ペナルティーエリア内にあるとはいえ、ハンドの反則で直接 FK を与える
 - d. ボールは GK の自陣ペナルティーエリア内にあるが、GK がボールを手で触れた部分はペナルティーエリア外なのでハンドの反則として直接 FK を与える



< 競技規則テスト問題 >

問題文を読んで、回答の指示に従って答えを一つ選びなさい。

- 1 次のフィールドの大きさで、国際試合として認められないものはどれか。 *
- a. 100m×68m b. 105m×75m c. 110m×64m d. 110m×75m e. すべて認められる
- 2 フィールドチェックの際、片方のゴールポストとクロスバーの形状は円形、もう片方のゴールは楕円形であることに気づいた。主審の取るべき処置は。(正しいものがない場合は、e とする) *

- a : 試合前に両チームの合意が得られれば認められる。
b : 競技会規定により認められていればよい。
c : 両ポストの間隔、および地面からクロスバーまでの高さが正しければ認められる。
d : 競技者に危険でないと主審が判断すれば認められる。
e : a~d は、すべて正しくない。
- 3 主審が、笛を吹く必要がないのはどんなときか。 *
- a.ペナルティーキックでプレーを停止するとき
b.前半、後半の終了時でプレーを停止するとき
c.ペナルティーキックでプレーを再開するとき
d.ドロップボールでプレーを再開するとき
e.規定の距離を下げたときのフリーキックでプレーを再開するとき
- 4 負傷者を競技のフィールドから退出する要件について、例外とする場合があるが、正しくないものはどれか。(すべて正しい場合は、e とする)*
- a : ゴールキーパーとフィールドプレーヤーが衝突し、対応が必要なとき
b : 相手競技者が警告される、または退場を命じられるような体を用いた反則の結果として競技者が負傷したが、負傷の程度の判断と治療がすばやく完了できるとき
c : 異なるチームの競技者が衝突し、対応が必要なとき
d : ペナルティーキックが与えられ、負傷した競技者がキッカーとなる場合
e : a~d は、すべて正しい。
- 5 主審がアディショナルタイムを5分取り、3分(ランニングタイム 93 分)が経過したときに GK が負傷し、治療が完了するまでに4分かかった。主審は、試合再開後、何分後に試合終了の笛を吹くべきか。
- a. 1 分 b. 2 分 c. 3 分 d. 4 分 e. 5 分

<報告事項>

◇2021 全国大会に参加した 2 級審判員の事後アンケート

資料より(項目ごと、毎月掲載)

○レフェリングについて大会を終えて感じたこと

▶クラブユース 18 (CYU18)

- 地域での同年代の試合と比較し、様々な違いを感じることができました。(選手の心技体やチームの特徴など)
- 特に難しい事象はありませんでしたが私の判定基準で選手が集中してサッカーに取り組んでもらえてよかったと思います。
- マネジメントの引き出しや、動きの質についてまだまだ改善する必要があると感じた。
- 大会のレベルにマッチしたレフェリングができていたと感じます。
- 全国レベルに携われてよい経験になりました。
- 思っていた以上にプレースピードが速かったり、コンタクトも強かったですが、判定は自信持って出来ました。通用した部分、課題となった部分がありましたが、収穫がとても多かったです。
- マネジメントに関して、まだまだ不十分な点もあり、今大会を振り返っての課題となった。

- 大会を通して、自分が持っていることを発揮することが出来た。
- 今大会では高校ユース年代の全国大会ということでレベルもとても高い試合ばかりでした。選手が安全に試合が出来るように務めました。選手と一緒に試合を作っていくことでお互いにいい関係を築けて勝敗関係なくいいゲームが作れるということを実感しました。
- 選手とのコミュニケーションは自分の武器であるということを認識することができました。
- 課題として考えていた、全体感あるコントロールや、選手との関わり方についてヒントを得られたと思う。
- 主審としての強さは表現できたのかなと思いました。また、他地域の高いレベルの審判員と組む事で自分にはないものを発見する事もできました
- 目標をしていたことを概ね達成できた。
- 試合にマッチした動きが出来なかった。

➤クラブユース18 (CYU18)

- コロナ禍での開催で不安があり、トレーニング不足が露呈した
- 担当したどの試合もフェアで、気持ちいい試合ができた
- 選手がプレーに集中しており、マネジメントを駆使する必要もほとんどなく、ゲームコントロールすることができた。対角線を意識してポジション調整を行うことができた。
- 普段組まないメンバーでレフェリングをするため、打ち合わせでの内容、試合中の審判員同士の声かけ、ハーフタイムでの話し合いなど、コミュニケーションの大切さを改めて感じた。他の方のレフェリングを現場や映像で見て、自分に足りない部分(選手の落ち着かせ方)を見つけることもできた。
- 今の自分の持っている範囲内の力は出せましたが、実力の範囲を上げられるような感覚は掴めませんでした。
- 自分自身の地域での普段行なっているレフリングを全国大会でも発揮するかができ、そこで今までではあまり見つけることのできなかった新たな課題を見つける事になりとてもいい経験だった。
- インストラクターのみなさんから光が差し込むような温かい指導を頂けて本当に嬉しかったです
- コロナ感染症の濃厚接触者となったため（のちに濃厚接触者からは外れました）、2日間しか大会に関わるができず、主審1試合・副審1試合のみとなってしまい、準備してきたものが発揮できなかった点で残念でした。全国大会の緊張感の中で、他地域の審判員と共に少ない時間ながら、試合に関われたこと自体は大変有意義なものでした。
- ポジショニングや動き出しの面についてまだまだ課題がある。判定の面については普段の力が出せた。先を見据えて準備していたために、2回戦で帰ることになったのは残念であった。
- 必要のないコミュニケーション取らずにスムーズなゲーム進行を意識したところ、選手の理解が大きいことが最もですが、スムーズなゲームになりました。緊張感がある中、こういったいい試合作りができるようになってきたと確認でき

ました。

- コロナの影響で、主審を一試合しかできていないので、不完全燃焼でした。
- 他の地域のアセッサーに試合をみてもらい、自分の課題を客観的にアドバイスいただきました。すぐに修正できる項目もありましたので、地域に帰ってから活かしていきたいとおもいます。
- 県・地域を代表して参加させて頂いてる事を胸にレフェリングする事ができました。
- 自分の地域では体験できないレベルの高い試合を担当することができて満足しました。

<その他連絡事項>

- 緊急事態宣言解除後⇒感染防止の徹底継続、油断せず予防策継続するようお願いしたい
- **WEB 版 競技規則の活用**
- **JFA ラーニングによる更新講習（サッカー/フットサルの 3 級/4 級）の設定/受講が可能となった**
- **JFASQUARE にアップしている「サッカー競技規則と実践的審判法」の映像が更新された**
- **「競技規則と実践的審判法」の DVD 販売を終了した**
- **オンライン講習用に地域/都道府県に提供している「サッカー競技規則と実践的審判法」のデータが更新された**